

1 活動名 そうだ！やってみようよ！ぼくたち・わたしたちのおまつりだ！**2 活動のねらい**

- ・自分（たち）のめあてをもち、それを実現するために、自由に発想し、試したり工夫したりしながら遊ぶ。
- ・みんなでする「こどもまつり」に向かってイメージを創りあげていく面白さを感じながら相談したり、協力したりして遊ぶ。

3 保育の構想**(1) 資質・能力で捉えた子どもの姿**

4月にクラス替えを行い、男児10名女児9名計19名（うち4月入園児4名）の学級編制である。本学級の子どもを以下の3つの視点でとらえた。

① 「気付き・めあてをもつ姿」について

自分なりのめあてをもって見つけた遊びを楽しむ姿が多く、特に泥だんご作りの遊びでは一人一人がどんな泥団子にしたいか、どうやったら作れるか等を考えながら作っていた。「絶対割れない強い団子はこうやって作るよ。」「やさしいサラ粉でコロコロしたら光るよ。」等、遊びの中での気付きを伝えにくる姿がある。これらの姿から自分で思いついた事を意欲的に試している様子が見られている。子どもの気付きや考えを学級で共有していく為に、泥団子発表会の活動を行った。その際、どんな工夫をしたのかを伝えたり、どうやって作ったのかを聞いたりする姿が見られ、その後自分の遊びへと取り入れながら楽しんでいた。このように自分のめあてを明確にもっている時には興味関心をもち取り組んでいこうとしている。反対に願いや興味関心が薄い時にはやってみたものの、つまずき、すぐにやめてしまうことや友だちと楽しさを共有できずに戸惑ってしまうこともある。

自分から身近な環境や自然にかかわりながら遊ぶ体験、実際に材料や道具を使いながらイメージしたものを作っていくことを経験し、めあての実現に向けて試行錯誤する姿を育てたい。好奇心を発揮しながら、自分の遊びに面白さを感じ、「何でだろう？」「どうしてかな？」といった問いをみつけながら遊びを楽しむ姿を期待する。

② 「発想し、試す姿」について

「どうやったらあの高い所のドングリが採れるかな」「ここをくっつけるのは難しいな」等と上手くいかない場面に出会う中で、「これを使ってみようかな」「こっちの方法はどうかな」「どんな作戦にしようかな」等と自分の考えを、やってみながら遊びをすすめていこうとする姿が見られている。

子どもが「やってみたい」「もっと〇〇にしたい」「むずかしい」と思ったことに向かう中で、イメージを膨らませ、自ら発想したことを試しながら表現していく姿を期待する。

③ 「協同する姿」について

運動会に向けた活動を経験した中で、友だちと積極的に関わり遊びや行事を共有しながら様々な感情の交流を通して、友だちの異なる思いや考えなどに気付いたり、自分の存在感を感じたりしながら行動するようになってきている。このように友だちに思いを寄せたり、友だちから触発されて自分の力を発揮したりする姿が見られるようになってきた。そ

の際、上手くいかない場面や、どうやったら友だちのように出来るのかといった場面に出会うと、遊びや話し合いの中で友だちに自分の思いや考えを積極的に伝えたり、友だちの思いや考えを聞こうとしたりしている。今後はさらに、子ども一人一人が意欲的に自己発揮し周りの人を意識して、友だちと一緒に課題を解決しながら生活をしていく姿を育てたい。そして、学級のみんなで協同する遊びの姿を期待したい。友だちとめあてを共有し、それを実現するために、友だちの考えと自分の考えを合わせ、折り合いをつけながらつまずきや問題を一緒に解決し、実現した時の達成感を共に感じられるようにする。

この時期は、年長9期にあたり、「こどもまつり」に取り組む活動を計画している。学級の友だちと一緒に考え、自分たちの遊びから祭りを作り出していき、そこから「こどもまつり」に向けた子どもたちの発想を引き出していく活動である。「こどもまつり」から発想する自分たちの遊びを楽しみ、友だちと問題解決等しながら実現しようとする姿や、学級で同一のめあてに向かって協力して取り組もうとする姿が期待できる。

(2) 資質・能力を育むための教師の援助

「こどもまつり」の活動に取り組む中で気づきや発想を伝えあうことで、お互いの良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わえるようにしたい。そして、友だちと共有することでさらなる気づきや発想が生まれ、それを共通のめあてにして、協力しながら楽しんで遊んでいくことを期待する。「こどもまつり」に向けてそれぞれの子どもがイメージした自由な発想を価値付けていく事で、みんなで「こどもまつり」を創るという共通のめあてに向かう。

活動を構成するにあたっては、「気づき・めあてをもつ姿」「発想し・試す姿」「協同する姿」の資質・能力が現れている姿として、以下の事を大切にする。

○「気づき・めあてをもつ姿」については、子どもの気づきが、「やってみたい」「○○にしたい」といっためあてにつながるよう、子ども一人一人の探求しようとする姿に共感し、環境を工夫していく。例えば子どもの学びの場面や発言を写真やイラスト等を使って視覚化する。視覚的に描くことで、探求の始まりにおいては今後に期待を膨らましたり、活動が進む中で、自分たちが何に取り組む、どんなことが起こり、何を経験し、今どうなっているのか等、遊びを振り返ったりすることが出来るようにする。

○「発想し・試す姿」については、子どもたちが願いをもった時にそれを実現できるような素材を十分に用意し、子どもがイメージを豊かにした物を表現できるようにする。教師は子どもの願いや思いを遊びの中から見取り、自分自身で意識化できるよう意味付けの援助を中心としてはたらきかけていく。子どもの思いに寄り添いながら、どんな方法や材料、道具があるのか、どうしたら上手くいくのかを問いかけたり一緒に考えたりしていく。自然物や段ボールなどの材料で十分に遊んだ上で、作りたい物に合わせて遊びの中に取り入れる事が出来るように、様々な素材での遊びを十分に経験出来るようにする。

一人一人の発想力や経験が子ども同士の中で交わり合い、触発され合うことを願う上で、友だちと一緒にめあてに向かい、お互いの発想を合わせながら進めていく姿を支えていく。

○「協同する姿」については、子ども同士が相談し課題解決に向かう姿を促していく。課題に気付けるような問いかけをすること、お互いの考えを確認できるよう思いを引き出すこと等の援助を行う。

また、子どもが「こんなお店にしたい」「お客さんにどう楽しんでもらおう」等の祭りをイメージした他者へのめあてをもって遊ぶ姿を大切にしたい。個々で夢中になっている遊びに対して、「お客さんに喜んでもらえるお店にしよう。」等といったこどもまつりへの共通の目的意識を集団でもち、協同へと発展していけるようにする。例えば、

- ・個々で遊ぶ傾向があるものでは、遊びを「こどもまつり」として発展させていくために、遊び自体を「ごっこ化」していく。
- ・子どもたちの中でめあてが共有できるように、他の友だちがお客さんとなり交流し合う場を構成する。等

それぞれの「こどもまつり」のイメージを共有することで、活動を共有出来るようにする。

時には、友だちと相談し進めていく中で、友だちとの思いの違い等から葛藤等の感情を経験することも予想される。そのような時には、まずは子ども同士で思いを出し合う場を大切にし、時には意図的にそのような場を作り出せるよう環境を構成していく。

4 展開計画

	ねらいと内容	◇願う子どもの姿
10月2週～11月1週	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然を感じながら、自分（たち）のイメージやめあてをもって遊ぶ。 ・自然物を集める、ごっこ遊びに取り入れる等、秋ならではの自然物に触れる。 ・作りたい物に合わせて自然物を利用する。 ・木登りや運動会ごっこ等心地良い気候の中で体を十分に動かして遊ぶ。 ○驚き、発見、感動などの体験から、気付いたことを遊びの中に取り入れる。 ・遊びに必要なものを友だちと一緒に考える。 ・友だちと考えを出し合って、遊び方やこれから遊びをどのようにしていくかを決めながら遊ぶ。 ○いろいろな友だちに呼びかけながら遊ぶ。 ・みんなと一緒に遊ぼうと友だちを誘いかける。 ・お店などに、お客さんとして来てほしいと友だちを呼ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇やりたいと思いつき自分から進んで遊びをみつける姿 ◇遊びの中でやりたい事をいろいろと試す姿 ◇友だちや教師とやりとりをしながら楽しさを共有し、遊びに充実感を感じる姿 ◇お店屋さんごっこやお化け屋敷ごっこ等、今まで経験したことから、自分たちもやってみようと遊びに取り入れていく姿 ◇どのようにしたら面白くなるのか、イメージを形に表すことができるのか等を、一緒に遊ぶ友だちと出し合う姿 ◇お客さん役の友だちや教師、他クラスの友だち等とやりとりをし、リクエストに応えるために相談や工夫をする姿
11月2週～3週(含本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○じぶんたちのめあてを実現するために、試行錯誤しながら楽しんで遊ぶ。 ○「こどもまつり」に向かってイメージを創りあげていく面白さを感じながら、協同して遊ぶ。 ・自分なりの祭りのイメージをもち、友だちと一緒にお店などを準備する。 ・「どうしたら楽しいお祭りになるのか」を考えながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分のしたい事が明確になり、遊びを進めていく姿 ◇「こどもまつり」に期待感をもち、作ったり準備したりすることを楽しみながら遊ぶ姿 ◇「こうしようよ。」「それいいね。」等と活発に自らの考えを伝え、友だちの思いと自分の思いを合わせ、課題を解決していく姿 ◇具体的なイメージをもち、試しながら実現できるようにする姿
11月4週～12月1週	<ul style="list-style-type: none"> ○「こどもまつり」の当日を意識して、祭りに来る人のことを考えながら準備をする。 ・他の友だちがお客さんとなり、互いのお店に行き来しながら、祭りに向けて発展させていく。 ・自分たちの祭りを見てもらおうと、みんなに声をかけて誘う。 ・「こどもまつり」の日にお家の人に見てもらおうことを楽しみにしながら、さらに遊びを進めていく。 ○「こどもまつり」でお家の人や友だちに見てもらえたことを喜び、満足感をもちながら片付ける。 ・「友だちと一緒にだから楽しかった」「友だちと一緒にして良かった」等の気持ちをもって片付ける。 ・友だちと「こどもまつり」で一緒にしたことや楽しかったことなどを振り返って話をしながら片付ける。 ・作った物を大切にしながら、明日も続けていけるように整理や片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇どうすれば楽しい祭りになるのか考えを出し合う姿 ◇友だちと互いに手を貸し合う姿 ◇友だちと気持ちがつながることを喜び、店に行ったり来てほしくて呼び集めたりする姿 ◇自分たちの「こどもまつり」にみんなを招待しようという気持ちを持ち、どうすればみんなに来てもらえるのか考える姿 ◇どんなお店だとお客さんが楽しくなるかを考えて、お客さんとのやりとりをイメージし、お店の用意をする姿 ◇「こどもまつり」に終止感をもつまで続けていく姿 ◇作った物や遊んできた過程に満足感を持ち、大切にしながら楽しんで整理や片付けをする姿

